

- some time.
- b. After the surgery, your son is not going to be doing any sport for some time.
6. 今晚8時で、我々は12時間以上ずっと歩き続けていることになる。
- a. By 8 p.m. tonight, we will have walked for over twelve hours.
- b. By 8 p.m. tonight, we will have been walking for over twelve hours.
7. 何か飲み物でもいかがですか？
- a. Would you care for something to drink?
- b. Would you have something to drink?
8. あの、警察に通報した方がよいのではないかなと思いますが。
- a. I would say that a better solution would be to report it to the police.
- b. I would think that a better solution would be to report it to the police.
9. 全く同感です。
- a. I would say that.
- b. I was going to say that.
10. 今週末に玲子と話をすることになっているんだ。どうなったかは、じゃあ来週会ったときに教えてあげるね。
- a. I'm talking with Reiko this weekend. When I see you next week, I'm going to tell you what has happened.
- b. I'm talking with Reiko this weekend. When I see you next week, I'll tell you what happened.

第5章

mustとhave toと have got to

助動詞の must には大ざっぱに言って2つの意味があります。一つは「～しなければならない」であり、もう一つは「～であるに違いない」です。

一つ目の意味に関しては、中学では先生から「must と have to とは同じ意味ですが、must には過去形も未来形もありません。不定詞や動名詞の形もありません。だから、その場合には must の代理として、have to の出番になります」と教わったのではないのでしょうか。しかしながら、「～しなければならない」の must と have to とは同じ意味ではありません。実際にはいくつか大きな違いがあります。そのあたりから、まず見ていくことにしましょう。

5-1 「～しなければならない」

1 must と have to の大きな違いは？

私たち日本人の英語に対して、現在いちばん大きな影響力を發揮している英米人は誰？と問われれば、おそらくこの人の名前が真先にあがると思います。そう、マーク・ピーターセン (Mark Petersen) さんです。『日本人の英語』(岩波新書) を筆頭に、英語の真髄をわかりやすく述べた著作が何冊もベストセラーになっています。このマーク・ピーターセンさんが(私はまだご本人とはお目にかかったことはありませんが)「～しなければならない」の **must** と **have to** の違いについてどんなことを言っているのかは興味がありますね。『日本人の英語はなぜ間違えるのか？』(集英社インターナショナル) pp.58-60 からちょっと引用してみましょう。

「～しなければならない」ことを示す **must** という助動詞は、改まった感じが強く、演説やきわめて硬い文章なら頻繁に使われますが、ふつうの会話や特別に改まっていない文章には出てきません。出てくるのは、**have to** です。

例えば、「もっと勉強しなければならない」といった趣旨を述べることは誰でもよくあることですが、私はこれまでの長い人生で、

I [you, he, she, they] **must** study more.

のように、**must** を使って述べたことは一度もありません。

I [you, he, she, they] **have to** study more.

ならいくらでもあります。... (中略)

私が持っている中2用の英語教科書では、肯定文における

must と **have to** の用法が次のように説明されています。

「～しなければならない」と義務や命令について言うときは、〈**must** + 動詞の原形

〉の形を使います。「～しなければならない」と必要性や義務について言うときは、〈**have to** + 原形

〉の形を使います。*
正直言ってこの説明では、日本の中学生は迷ってしまうでしょう。... (中略)

言うまでもなく、上記の説明は肯定文における **must** と **have to** の本当の使い分けとは全く関係ありません。**must** か **have to** かの問題は、あくまでも表現の硬さの度合いによるものにすぎないのです。

* *SUNSHINE ENGLISH COURSE 2* (開隆堂出版、2012年)

ここまで引用をしてみました。どうでしょうか。マーク・ピーターセンさんは、「～しなければならない」の意味で **must** が使われるのは、

- ① きわめて改まった話しことばの場合と、
- ② 公式の硬い書きことばの場合

であって、それ以外の場合にはもっぱら **have to** が使われると言っているのです。つまり、**must** と **have** は表現の硬さにおいて大きな違いがあると言っていますね。

2 must と have to にはもう一つ大きな違いが...

マーク・ピーターセンさんの指摘に加えて、さらにもう一つ別の点で、この「～しなければならない」の **must** と **have to** の間に大きな意味の違いが生じることがあるのですが、それがわかっているかどうか、まず問題をやってみて、それから解説に移りましょう。

【問題1】 次の4つの文のうち下線部の使い方がおかしいものが一つあります。どれでしょうか？

1. I must get up early tomorrow because I've got a lot of things I want to do.
2. I must go and see my boss because he's called me to his office.
3. The students at my school have to wear uniforms.
4. I'm afraid I have to go now.

正解はわかりましたか。全く基準がわからない人のために少し説明しましょう。

must の「～しなければならない」は「個人的・主観的な動機・心境」から発せられることばとされています。話し手の personal feelings です。

have to の「～しなければならない」は「外的条件・客観的な状況からの圧力・命令・要求」を表すことばとされています。

つまり、話し手が個人的に「～が必要だ・～しなければならない」と判断しているときには must、話し手の心境とは無関係に、規則や慣習や状況から見て「～が必要だ・～しなければならない」場合には have to ということです。

ここで気をつけたいのは「話し手」の気持ちということです。「文の主語」の気持ちではありません。(I と We の場合には、話し手 (= I) と文の主語 (= I, We) とが同一になりますが) では、この【問題1】に戻って考えましょう。

1. I must get up early tomorrow because I've got a lot of things I want to do.
「明日はやりたいことがたくさんあるので早起きしなくちゃ」

この文の「早起き」は他人から命じられていることではありません。また学生寮の起床時間のように規則で早起きが決められているわけでもありません。話し手が勝手に「早く起きなければならない」と感じているのです。そういう場合は「個人的な動機」ですから、must が使えます。(◎)

2. I must go and see my boss because he's called me to his office.
「上司がちょっと部屋まで来いと呼んでいるので、会いに行かなくちゃならないんだ」

この文では話し手 (= I) が内面的な動機 (例えば職場の問題を上司に相談したいと思って、とか) で上司のオフィスに行こうとしているわけではありません。上司に呼びつけられたのです。外的状況からの要請です。行かざるを得ないのです。こういう場合は have to は使えても must は使えません。(×)

3. The students at my school have to wear uniforms.
「わが校の生徒は全員制服を着用しなければなりません」

典型的な、外的状況からの圧力を表す文です。学則で決まっているので制服を着ざるを得ないのです。規則により～しなければならない場合は have to です。must ではありません。(◎)

4. I'm afraid I have to go now.
「残念ながら、もう失礼しなければいけない時間です」

「もう帰らなければなりません」ということばは「個人的な事情」から言っているのか (もう飽きた・眠くなった)、それとも「客観的な外的状況」から言っているのか (終電が出てしまう・妻に10時ま